

## 四万十町地域公共交通活性化協議会設立総会 議事録要旨

- 開催日時：平成31年4月17日（水）14時30分～16時00分
- 会場：四万十町役場本庁東庁舎 1階多目的大ホール
- 出席者：別紙のとおり

---

※会長が決定するまでは企画課長が進行を行った。

### 1.開会（町長挨拶）

### 2.四万十町地域公共交通活性化協議会設立について（資料1）

事務局から資料1 四万十町地域公共交通活性化協議会設置要綱（案）について説明を行った。

【意見】

なし

### 3.委員委嘱

町長が委嘱を行った。

※委嘱後、町長退席

### 4.自己紹介

出席者全員による自己紹介が行われた。

### 5.議事

#### (1) 四万十町地域公共交通活性化協議会 会長及び副会長の選任について

- 会長の立候補者がいないか意見を求めた。

【意見】

なし

立候補者がいなかったため事務局から、副町長の森武士を推薦。

【意見】

異議なし。

⇒全員一致で承認された。

●四万十町地域公共交通活性化協議会設置要綱第 4 条第 2 項により会長が副会長の指名を行った。

⇒社会福祉法人しまんと町社会福祉協議会 会長 八木 雅昭氏が副会長に選任された。

## 6.四万十町の公共交通の現況と課題について（資料 2）

●事務局から資料 2 について説明を行った。

### 【意見】

（事務局山本）

診療所のバスについて補足および訂正。興津診療所がなくなった関係で東又地区にある土居診療所までバスを運行しているが、運行事業所はバス会社ではなく、個人委託をして運行している。教育委員会が所有していたバスを借りて運行している。

（会長）

H29～30 年度はコミュニティバスの大幅な減少はない（200 人程度の減少）が、バス停までいけない方がいるのは確か。去年は天候不順もあったかと思うが、そういったところの検証はしているのか。

（事務局）

していない。

（國元委員）

バスに乗って買い物に行くが、帰りは荷物がいっぱいになると、高齢者は一人でバスに乗って帰るとするのは難しい。杖をついているような人が多いため、帰りはタクシーや他の人をお願いする、という方法にしないとバスの利用は難しい。

今日宅老所があったので 15～16 人の人に意見はないか聞いてきた。すると、「毎日来て欲しい」「週に 1 回では行きたいときに行けない」「病院の曜日とバスの曜日が合っていない」などの声があった。

（中平委員）

資料 2 の現状における課題というところで「行政負担の増加が見込まれる」と書かれているが、町に増やせる予算があるのか。すべての交通を公共交通で補おうとするのではなく、住民の力を発揮させるものをつくらないと、経費がどんどんかかってくると思う。

(國元委員)

京都の方で、公的な資金を使わず、住民が立ち上げ、住民同士が助けあうライフシェアというものがあるとテレビで見た。元気な住民が輸送にかかわってもらうのは大事だと思った。しかし安全面が一番大事なのでそれをクリアしないと難しい。

(上戸委員)

バスやタクシーは安全が担保された事業であるので、まずはバスやタクシー事業所を継続していくということを考えていただきたい。バスやタクシー事業所で公共交通を成り立たせるのが出発点ではないかと考えている。

(中平委員)

タクシーがなくなると大変なことになる。全てが共存できるような仕組みを作らないと、困るのは住民。

## 7.四万十町地域公共交通網形成計画の策定について (資料3)

### 8.今後の進め方について (資料4)

●事務局から資料3と資料4について説明を行った。

【意見】

(西内委員)

資料3のP.2の「地域にとって望ましい公共交通網のすがた」を議論するにあたって、都市計画、交通計画を研究している立場から言えば、将来の人口などを見ながら、5年とかではなく長期的視点でみてほしい。事務局の資料で、四万十町の人口が30年後には7,597人に減少するとなっているが、この時はもっと高齢化が進んでいると思われる。今いる高齢者の足を確保することはもちろん大事だが、現在、公共交通に興味がない人に、いかに興味を持たせるかが大事になってくる。

30年後、私も高齢者になるが、公共交通を使うということは、車に比べて、バス停に行くとか、必ずどこかに行かないといけないので大変体力がいる。自分が30年後高齢者になったときを見据えて歩く癖をつけておかないといけないと、公共交通も乗れなくなる。

ベースとしては、もう少し長期的に物事を考えながら公共交通網形成計画の5か年計画を立て、具体の施策として公共交通網形成計画にのせるということが重要ではないかと思う。

このような計画を資料4のスケジュールで行うというのは非常にタイトなスケジュールだと思うので、10年後、20年後、この地域がどうなるかをみなさんに考えていただき、第2回の活性化協議会を迎えてはどうだろうかと感じた。

(岡田委員)

こういう計画を作るということはとても素晴らしいと思う。ただ、計画を作って終わりではなく、計画に基づき進捗管理を行い、どんどん修正していくべき。住民と行政と交通事業者が進捗状況を確認しあって、何を改善していくのかを整理して、計画をどんどんバージョンアップさせていくことが大事だと思う。

(國元委員)

民生委員をしているので、大豊町に交通関係の見学にもいつてきた。

四万十町と状況が似ているところで、成功事例や失敗事例など、参考資料があれば提供してもらいたい。

(会長)

第2回の会議の際には県内外の優良事例なども整理して委員のみなさまには資料提供できるようにしたい。

(國元委員)

大豊町ではワンコインでタクシーを乗り合わせていて、いい仕組みだと思った。

(上戸委員)

ひとつの視点として、先ほどいわれたように、町の人が乗り合わせているということは、そういう交通があるということを知っているということ。自分たちが使えるものがあるということを意識している。マイバス意識という、例えば町がバスを走らせて、「走っているね」で終わってはダメ。自分たちが乗らないと続かないということを認識してもらわなければならない。自分たちが乗らないと続かないということを認識したのが大豊町の結果かなと思う。

(谷崎委員)

公共交通の利用方法を知らない住民の方が多くいるのではないかなと思う。福祉タクシー・バス利用券の利用方法が分からない人がある。区長さんや民生委員さんが、住民へ説明してあげたら活性化につながると思う。

(中平委員)

上戸さんからマイバス意識というお話があったが、十和地域はコミュニティバスが走っており、「乗らないとなくなるから」と、地域の方々がバスに乗って喫茶店へ行き、モーニングを食べるといった利用をしている。徐々にそういう人も増えてはきているが、意

識を変えるということはまだまだ大事だと思う。

(國元委員)

コミュニティバスに乗れる人はまだ元気な人たち。バス停までも歩いていけない、バスに乗っても荷物がいっぱいでは帰りは帰れないといった人たちもいることを分かって欲しい。

(谷崎委員)

そういうときにタクシーを利用すれば、荷物がいっぱいあっても乗りやすいとか、そういう感覚が十分に住民の方へ伝わってないような気がする。荷物がいっぱいあるときはタクシーを利用したりすれば、住民もタクシー事業所もうれしいと思う。

(会長)

その点については、課題の中でしっかりと整理をしていきたいと思う。

(岡田委員)

県の事例紹介。30年度に県内で網計画を2つ作っている。複数の地域をまたがった嶺北地域や東部など。参考になるところもあるかと思うので次回の会で概要書など準備をしたい。

## 9.その他

(國元委員)

会の日程を早く周知して欲しい。

(事務局)

5月の上旬頃には周知をする。

(八木委員)

事前に会議資料を送付して欲しい。

(事務局)

対応する。

(池上委員代理)

中山間地域対策課の方でも事例を取りまとめているので、次回紹介したい。

10.閉会